

IFI '95 NAGOYA

インテリア新しいうねりの創造
INTERIORS : NEXT WAVE

新年を迎えて 「世界インテリアデザイン会議」の意義

理事長 長岡 貞夫

新年明けましておめでとうございます。

新たな年にあたり、'94年の協会活動を振り返りつつ、いささか今年の抱負を述べてみたいと思います。昨年も会員の皆様の活発な活動により、多くの成果をあげることができました。まず、IFI理事を迎えて「IFI '95 NAGOYA」のプレシンポジウム、衣替えした「JID賞」、そして、飛騨高山の地場産業に対する協力など、国内外の要望に積極的に対応し、所期の目的を達成することができました。また、JIDの事業活動の要となる事務局の整備された環境への移転は、業務の効率化と共に、協会の新しい顔としてプレステージを高めたと言えるでしょう。これらの事業を成就できたのは、多くの方々の献身的な協力によるものと、明記しておきたいと思います。

さて、今年'95年が「世界インテリアデザイン会議—IFI '95 NAGOYA」の開催年にあたることはご承知のとおりです。'91年IFIシカゴ総会で名古屋開催が決定して以来、早くも4年が経過しようとしています。この間、会議を主催する関連8団体による運営会の発足、事業計画を企画・立案する実行委員会の組織化、これを推進する事務局の設置など、10月2日の開催日に向けて、会議と関連事業の具体化のための準備を、精力的に進め

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1994 12・1
1995

「目次」

特集/新年を迎えて

- 「世界インテリアデザイン会議」の意義……………1
- IFI '95名古屋ツアーなど、魅力的な事業計画を…2
- 会員相互のネットワークの強化を……………2
- 「IFI '95名古屋」を通して交流の輪を……………3
- 「IFI '95名古屋」に全力投球……………4
- 環境を大切にするデザイン……………5
- IFI '95の年に自分のオフィスを建てる……………5
- 「NEXT WAVE」は私自身のテーマ……………6
- JIDに期待するもの……………6
- インテリアデザイン概念の新たな構築を……………7
- 会員増強とパワフルな行動力……………8
- インテリアデザイナーの使命と可能性とは……………8
- 将来の人材の掛け橋を目指す……………9
- 事務局の移転を経て今年1年……………10

- 「作品集」募集始まる……………10
- 「IFI '95名古屋」に向けて会員拡充にご協力を！…11
- 国際委員会の活動と海外情報3件……………12
- 賛助会員について……………12
- 事業支部の動き……………13
- 「IFI '95名古屋」の近況と今後の準備計画……………17

1995～1996「会員名簿」改訂版について

1月10日に締切、すでに入稿済です。追加入稿(最終)は1月26日(木)、訂正ご希望の方は、当日までに。未着の方は、現行のままの掲載となります。

ています。

そこで改めて「世界インテリアデザイン会議」の意義について考えてみたいと思います。会議の基本計画の中のメインテーマ「インテリア新しいうねりの創造：INTERIORS：NEXT WAVE」で述べているように、21世紀を前に政治、社会、経済、さらに文化的、思想的にも世界は大きく変わろうとしています。これまでの概念、基準といったものが根本から見直され、新しい価値観やスタンダードへの模索が始まっています。インテリアデザインを取り囲む環境も、こうした流れと無縁ではありません。過剰なモノ志向への反省から、人、自然、環境、モノをバランス良く結ぶインターフェイスとして、今まさにインテリアデザインの使命が問われようとしています。

人間環境の空間の創造に関与するインテリアデザイン、社会の期待は今後ますます大きくなるでしょう。こうした期待に応えるべく、会議では多くの国から参加者と共に、グローバルな視点から空間環境について多角的に語り合います。そして、会議が新しい価値観を見いだすための絶好の機会であると同時に、新しい時代へ向けて、新たな潮流の第一歩になることが関係者から期待されています。

開催日まで残り少なくなってきました。「世界インテリアデザイン会議」が有意義で実りあるものになるように、皆さんの一層のご協力をお願いいたしますと共に、今年のご活躍を祈念いたします。

新年を迎えて IFI'95名古屋ツアーなど、魅力的な事業計画を

関東事業支部支部長 阪井 良種

支部長として初めての新年を迎えることになりました。若輩の私に昨年、思いもかけずの任命、協会で一番の大所帯である関東事業支部長の大任でしたが、皆様のご協力、特に関東の各委員の皆様に支えられた昨년을振り返り、本当にお礼申し上げます。

昨年は委員長や委員会のメンバーも大幅に入れ替わり、新しいポジションになじむ多少の助走時間が必要でしたが、今年は昨年以上に、正会員・賛助会員の皆様に積極的に参加して頂ける魅力的な事業を計画、実行してゆき

たいと考えております。

いよいよ今年は「世界インテリアデザイン会議／IFI'95 NAGOYA」の開催の年、私達 JID が中心となり初めて、世界のお客様を招き、様々なイベントを行う年です。

日頃活発に行われている会員に向けた〈対内的〉な活動と同じように重要な〈対外的〉活動として、未だ決して認知度が高いとは言えない私達インテリアデザイナーの職能について〈対社会〉に、認知と理解をアピールする絶好の機会として活用したいと考えております。

また、インテリアを取り巻く様々な産業、団体とのつながりも深め、インテリア業界全体の将来に対して実りあるイベントに盛り上げるためにも、会員の過半数を占めている関東事業支部会員の皆様の積極的な参加と、協力が会議成功の道となります。

支部としても、会員に向けた魅力的な参加の計画を練り、楽しめる〈IFI'95 NAGOYA ツアー〉なども計画する予定です。是非とも皆様のご指導と、ご協力をお願い致します。

新年を迎えて 会員相互のネットワークの強化を

関東・交流委員会委員 松居 明夫

インハウスデザイナーとして日頃業務に追われる中で、時として感じていた「もっと、幅広く自由にインテリアデザインの世界を見てみたい」との思いから入会させていただきました。



入会以来、幾つかの催しに参加をさせていただくうちに、会員の方々とお付き合いの機会も増え、その時々、いろいろとお話をさせていただくことが、日頃の業務において良い刺激となって来ています。

普段個人ではなかなか見ることのできない施設の見学であったり、お目に掛かることも難しい専門家の方々から直接お話を伺うことが出来るセミナーであったり、といった様々な「場」が企画されていることは、日頃考えの及ばない発想や全く別の視点から現状を考え直すヒントが得られ、新しい知識が吸収できるととても良い機会で

はないかと思っています。すべてのものに参加することは残念ながら無理としても、仕事を睨みながら出来る限り参加していきたいと思っています。

私は現在、異業種との協調によって、従来とは違った新しい視点での商品開発を目指そう、という業務を担当しています。同業異種ではなく、まさに異業異種の企業・部門同士によるものです。

活動を進めていく段階で、ネットワークと情報という内容でよく意見が交わされています。そうした中で、一見複雑そうに専門分野に独立していると思っていたものが、実はあるポイントを結んだことで、思っていた以上に簡単な構図に整理できたり、あるいは意外な考えに進展してみたり、面白いしヒョットして、と言うテーマが見付かったりして来ます。別々のグループや組織あるいは他のネットワークが、ターミナルを介して、相互に情報を発信し合うことによって新しい価値が生じて来ている、と言えるかもしれません。

それぞれがネットワーク化したことによって出来た新たなネットワーク上に、より大きな「知」の資産が形成されていっている、と考えていけるのではないのでしょうか。

オープンに発信される情報が、新たな「知」の価値に再編されていくことかも知れません。すでに JID は、インテリアデザイナーというネットワーク上に成立しています。しかし、会員相互は同業異種から異業異種と様々な性格を持っているようにも思えます。

JID というネットワークが、よりダイナミックな活動体となっていくには、JID としての情報の発信と共に自分自身、会員自身が情報を発信し、ネットワークを形成していくことが必要ではないでしょうか。

そうした中で、先輩会員の方々からのアドバイスもいただき、僅かながら委員会活動のお手伝いをさせていただく機会を得ました。これまでお話をする機会の無かった会員の方々と、この機会にお話が出来ればと考

えています。そうした中でネットワークが有機的に構成されていくように、そのお手伝いができればと思っています。

新年を迎えて 「IFI '95 名古屋」通して交流の輪を

関東・国際委員会委員 碓井 恵里

先日思いついて再び「2001 年宇宙の旅」をビデオで見ました。この映画は、1970 年にアサーシークラークの小説をもとに、スタンディ・キューブリック



が監督したもので、2001 年の未来では、普通の人々が気軽に宇宙旅行をしていて、世界と言う言葉が地球を意味するのではなく、宇宙にまで広がっているのです。2001 年は、もうすぐそこまで来ているのだけれど、残念ながら我々人間の技術の進歩は、アサーシークラークが考えていたほどではなかったようです。

さて、そんな日を夢見て、又新しい年が始まりました。JID においても「IFI '95 名古屋」もあり、飛躍の年となるのではないかと思います。

若輩ながら、関東事業支部で国際委員会のお手伝いをさせていただいており、JID における国際について考



近作／昨秋開港の関西新国際空港「ANA のラウンジ」・碓井恵里

える機会もあり、こうした交流に関心を持っておりました。

言林で「国際」を引けば「国と国との交際」とありますが、インテリアデザイン業界においては、情報交換もあるでしょう。人との交流もあるでしょう。日本人が海外で仕事をしたり、日本で海外のデザイナーが活動することもあるでしょう。外国との交換留学的デザイナー育成で、相互のレベルアップを図るなどもあるでしょう。本来の交流とは何かを発信して、それに対してのレスポンスがあることなのだと思います。ですから情報は、メディアの発達に伴い、日本にいた方が、より広域のより多くの情報が得られるこの頃ですが、それは一方通行であって交流ではないのです。

実際、海外で暮らすと、日本で耳に入る世界の情報に比べ、日本を扱う情報、ニュースの少なさに驚かされます。日本の風土・文化に興味のある方は大勢いらっしゃるし、日本のインテリアデザインの水準も非常に高いものなのです。なのに頻繁に交流が成立しないのは、日本人が単一民族で島国気質であるからでしょうか、それとも西欧人が東洋諸国を FarEast と呼ぶように、今だに日本を遙か遠くの東の国と思っているのでしょうか、そして言語の問題でしょうか。いまひとつ外から見た日本のインテリア業界は発信していないのです。

2001 年の人間を遙かに凌駕する知性体が送り込んだ「モノリス」が、電波による地球の情報を基に再構成したり、猿達や木星に電波を発信したように、JID が世界に向けて、電波を放つエネルギーが必要とされているように思います。そんな意味で本年の大イベントである「IFI '95 名古屋」は世界に通じる JID を知っていただくのに大変良い機会ではないかと期待しています。

新年を迎えて 「IFI '95 名古屋」に全力投球

中部事業支部支部長 池田 高明

新年あけましておめでとうございます。

1994 年は経済の回復の兆しが囁かれつつも未だ厳しく、また、社会面でも様々なことが起こり、激動の 1 年でした。「IFI '95 名古屋」の準備が、こうした社会情

勢下で進められておりますが、インテリア関連業界をはじめ、各界の厳しい経済状況の影響は免れず、荒波の中への船出とはいえ、予想以上の慎重な操舵が必要という感じがします。

昨秋来日した IFI 理事との懇談の折にも、世情を反映してか、会議参加に関しての経済面についての話題が多かったことが印象的でした。

最近では、パソコン通信を利用した経済的な国際会議が話題となっておりますが、デザイン会議では、デザイナー同士の交流や様々な体験を通して、デザインについて語り合うことも大切です。

「IFI '95 名古屋」は、厳しい予算の中での開催を余儀なくされることになりそうですが、その分、人々の持て成しによる手作りの暖かい会議として補うべきでしょう。

中部事業支部としても、会議開催に向けて総力を結集しての協力体制は、今年並びに次年度の主たる事業活動の一つとしております。

デザイン関連の教育機関のネットワーク作り、また賛助会員や協賛企業の方々との交流を通して、次代を担う学生をはじめ、若手デザイナーの会議への参加を呼びかけたいとも考えます。このことは、単に今回の会議のためということでなく、会議が終わった後に某かの成果を残すことができればとの期待があります。

先にまとめられた「会員のアンケート調査」では、正会員や賛助会員にとって、参加意識や参加の仕方に違いこそあれ、協会への期待度は高く、それゆえに事業支部としても目的意識を明確にする必要があります。会員の積極的参加を得るためにも、支部を拡大するためにも再考すべきと考えます。この会議開催を通して、会員の参加意識が高まりつつある折から、これを契機として、事業支部活動の更なる充実と発展が図れればと思います。そのためにも微力ながら努めたいと存じますので、何卒宜しくお願いいたします。

新年にあたって、皆様のご活躍とご健康を心よりお祈りいたします。



近作／昨秋完成の個人住宅のコーディネート・加納恭子

新年を迎えて 環境を大切にするデザイン

中部・国際委員会委員 加納 恭子

JID に入って早いもので
8ヶ月過ぎました。その間、
IFI プレシンポジウムなどのイ
ベントがあり、協会の行事にも
時々参加させていただきました。



そして、JID のメンバーだけでなく、色々な分野の方
たちともお話をする機会に恵まれました。特に IFI 懇親
会で、クロード・ベルーベ氏やマリアンヌ・フランダセ
ン氏とお話しできたことは印象に残っています。

プレシンポジウムでリチャード・リニントン氏のデザ
インと環境の問題提起は、新しいデザインを考えたり、
新しい素材を使ったりするとき、環境にどんな影響を与
えるかまで、考えていないことを気付かせてくれました。

「環境を考えてデザインしていますか」の質問に
「ノー」という返事しかできませんでした。これからは
地球にやさしいデザイン、天然の素材を使ったデザイン、
自然に返る材料を使ったデザインを考えていかなければ
いけない時代になっていくのではないかと思います。

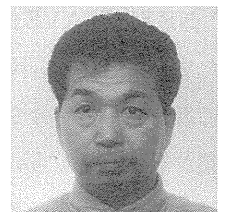
個人的には、今年は改革の年だと考えています。仕事

の幅を住宅のインテリアから、企画の段階から仕事に関
わって、設計、インテリア、エクステリアまで、トータ
ルにデザインをする方向に発展させて、仕事をしていき
たいと考えています。

新年を迎えて IFI '95 の年に自分のオフィスを建てる

中部・展覧会委員会委員 谷 八郎

“思えば遠くへ来たもんだ”
という歌のフレーズがある。遠
くとは距離を示してのことであ
ろうか。それとも精神的な蓄積、
広さを示してのことであろうか。



又、どちらも示してのことであろうか。時々、私はこの
歌のフレーズを思い出すたびに、自分はどれ程遠くへ来
たのだろうかと自問することがある。答えは決って、遠
くへ来たようにも思えるし、そうでないようにも思える。
その内“まあいいか”という形で忘れてしまう。

1995 年は、生まれた土地にささやかながら事務所を
建てる年になりそうである。家からは 800m 程離れた地
点である。それでも確実に 800m 程遠くへ行くことにな
る。いや、たかだか 800m ではないか。“まあいい
か”。1995 年は「IFI '95 名古屋」の年である。又、私の

できればと考えております。

ちなみに私の役割としては、当地区において活躍しているインテリア及びプロダクトデザイナーに関わっているデザイナーに声をかけて、職能の地位向上を図るために少々時間を掛けてみたいと思いますので、本部及び関西事業支部の役員の皆様には、地方へも目配りをしていただき、ご支援を頂けたらと願っております。



生きた情報の発信基地、クリエイトスタジオ「ビーム」・小田一美

新年を迎えて インテリアデザイン概念の新たな構築を

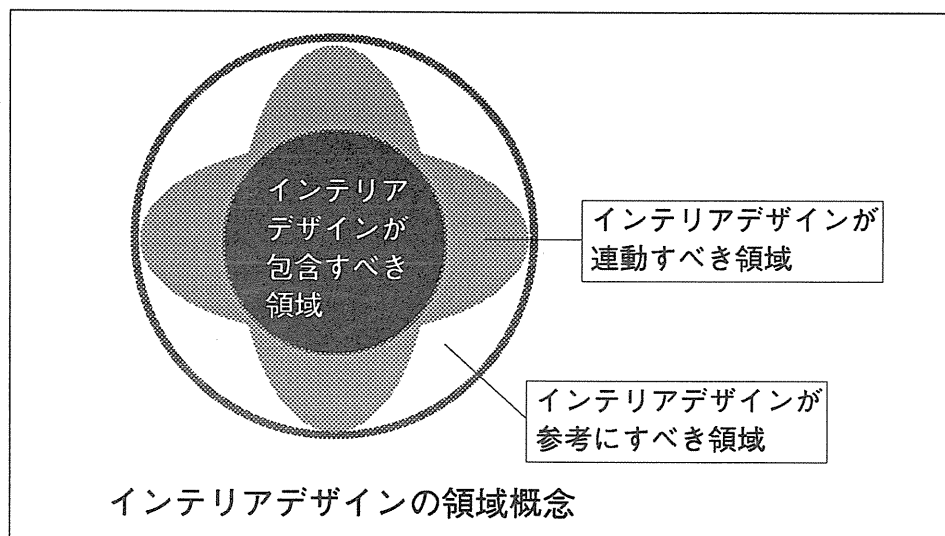
関西・教育・研究委員会委員 安藤 真吾

今、インテリアデザインの関わる領域において、さまざまな理論や技術、手法などが進歩しています。そしてそれに携わる我々インテリアデザイナーの職域もそれによってますます拡大し、ボーダーレス化していく傾向にあると思われます。



そこで、私が委員をつとめさせていただいている関西事業支部 教育・研究委員会では「インテリアデザイナーの職能の範囲の確立」というテーマで、インテリアデザインの業務の上で、包含すべき領域や連動すべき領域、また参考にすべき領域の見定めみたいなのをやっていきたいと考えております。（下図参照）

ストレスと空間の関係を研究している人、香りをテーマにインテリアデザインをしている人、映像の世界での空間をつくらしている人、高齢化社会における住空間について考えている人などと積極的に情報交換を行うことにより、インテリアデザイナーの可能性の拡大をはかり、インテリアデザイン概念の新たな構築に向けて、がんばっていきたいと思っています。



私が描くインテリアデザイン概念図・安藤真吾

新年を迎えて 会員増強とパワフルな行動力

九州事業支部支部長 鐘ヶ江 茂則

今年度は「IFI'95名古屋」が開かれる。JIDにとって、2年越しで準備はしてきたものの、大きな試練を受けることには間違いない、会議の内容、運営資金、パネリストの選定、イベントの内容、地域の参加意識、関連企業とのパートナーシップなど、あらまし進んではいるが、最終的な詰めがまだ残っている。

九州からのIFIは、まず全員参加登録を目標とすること、九州からの資金参加や出展参加はそうは望めない。しかし、10月までに意識の高揚を図ることが大切である。

新年早々より、組織委員会からの提唱で、「1人1人運動」を行うことにしている。当然本部・組織委員会との連帯で行うものである。

JIDの資格の問題、JIDとは、の勧誘のための資料の不備など、まだまだあるが、メリットは何か、となると説明は出来ない、メリットは各自が創り出すものが大切なことで、与えられるものではないと思っている。インテリアデザイナーの職域についての意見もかなり問題となる。人の生活に関わる部屋の内外に拡げていくことにより、勧誘の幅は開けていく。出来れば20代からの若い会員があって良いのではないか、新しい息吹とパワフルな行動力を持つこととなり活性化すると思う。

また支部機関誌が生まれたことで、支部会員や事業内容などの情報が内外に流れることによって、JIDの認識を高めていくことはできる。新会員が増強されていくことは、九州事業支部の場合は、そのメリットは大きく、パワーアップされると確信している。

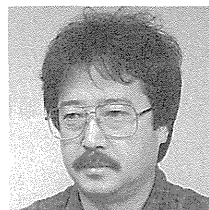
各事業支部それぞれの違い

はあると思うが、九州の場合は、会員間の交流と自主的な事業企画に、皆んなが喜んで参加されるようなイベントが必要であり、各位の意見を生かして進めていきたい。

新年を迎えて インテリアデザイナーの使命と可能性とは

九州・出版委員会委員 関光 信也

去る9月19日～25日までの1週間、ささやかな私のショップで「イージーオーダーテーブルフェア」なるものを開催しました。デザインの情報収集のため、



お客様のお宅を訪問すると、そこには実に悲惨な現実がありました。それはどの家に行っても、何かしら家がおかしいのです。つまり、建物や建具や内装などがバラバラでどれ一つとしてまとまっていないという現実です。男一生の大仕事で、とんでもない欲求不満だらけのものになっていたのです。施主にしてみれば泣くに泣けません。しかし反面、それは我々インテリアデザイナーが果たさなければならない責任と使命を発見することになったのも事実です。

思えば明治以来、暮らしの洋風化は、伝統的な日本様式と交錯しながら様々に変容して来ました。その上、多



昨秋、私のショップで「イージーオーダーテーブルフェア」を開催・関光信也

様化とか個性化とかで昨今のライフスタイルは、複雑怪奇なものになっています。徒弟制度を引きづっている旧来の家大工中心の家造りプロジェクトが、その変化に対応できないのも無理はありません。

ましてや、かつてのように、棟梁にイニシアチブがない今時の大工、左官、建具屋などが、おのおのの職域を機械的にこなすだけなのだから、まとまらないのが当たり前です。こうした現場の混沌を解決するには、整理整頓のプロが絶対に必要です。少なくとも私はそのスタンスで、生活者のライフアップに貢献しなければと覚悟を決めました。

インテリアデザイナーって一体何だろう？そしてインテリアデザイナーがしなければならない社会貢献って何だろう？

何処でどんな形の貢献ができるのでしょうか？1995年の年頭に我々の使命と可能性について大真面目に考えてみようと思っています。

「につけいでざいん」の中でのインテリアデザイナーの職域や職能のあいまいさに関する記事がありましたが、私はあいまいでいいと思っています。あいまいだから可能性がある。自信喪失なんかは個人の問題、歌の文句じゃないがいつも初舞台です。ちなみに私は経済学部出身です。

新年を迎えて 将来の人材の掛け橋を目指す

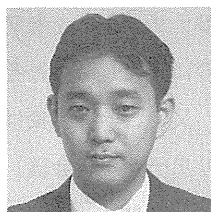
九州・組織委員会委員 小川 和彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、政治・経済ともに激動の年でした。今年は、再び安定の方向へと向ってほしいと思っています。

ただ今私は、雇用促進事業団立の「北九州職業能力開発短期大学校」で学生の育成にあたっております。

この短期大学校は、高度な技能・技術を兼ね備えた実践技術者を養成することを目的に、北は北海道から南は沖縄まで、全国に26校設立されており、その中にはインテリアデザインに関係あるインテリア科（3校）・住



「北九州職業能力開発短期大学校」における実習風景・小川和彦

居環境科（9校）・産業デザイン科（9校）が設置されております。

学校という実際のデザイン現場から離れた場所にいる私にとって、JIDの活動は大きな情報源となっております。さて、視点を逆にしまして、JIDの会員として教育現場を見ますと、10～20年後には、会員となってくれるかもしれない貴重な人材がいるわけです。現在、組織委員会などで、会員の増強などが話題に上っていますが、現時点での会員増強は勿論のこと、10～20年の長いスパンで考えて、デザイナーの卵に先行投資をしていただきたいと思います。

そのためにも今年は、教育現場にいる者として、第一線で活躍されているデザイナーと、これからデザイナーをめざす人との掛け橋として、活動して行きたいと思っています。

新年を迎えて 事務局の移転を経て今年 1 年

理事・事務局長 森谷 延周

新年あけましておめでとうございます。

昨年 5 月の通常総会を終えた途端、段ボール箱にして約 200 個、未整理の荷物を背負って、「恵比寿」から「新宿」に引越したのは、昨年 6 月 10 日でした。

山積みの段ボール箱を横目に、「定款変更の申請と認可」「移転登記」も済ませました。

また、その前には、関東事業支部初めての総会も開催されました。そして、リニューアルした「JID 賞」の公募も締切られ、順次、慎重に審査、8 月に入って、受賞作品の決定をみました。さらに、9 月上旬に開催された 5000 人参加の、「木のふれあいフェスティバル」（JID 受託事業）も大成功。

一方「IFI '95 名古屋／世界インテリアデザイン会議」の計画準備の進行に伴い、名古屋での会議も頻繁です。10 月 13 日～20 日には、IFI 理事 6 人と事務局長が来日、一連のイベントも、大勢の人達の協力によって、無事消化することができました。

話とはかわりますが、本部事務局の会議室には、「天童木工さん」のご好意により、ご寄贈いただいた「大テーブル」があります。これは理事会、委員会、来客への応対、発送業務などの作業台など、フルに稼働し、本当に助かっています。皆さんで大事に使わねばなりません。

事務局は今、「会員名簿」の改訂版に着手（本年 3 月末日発行予定）、会員に関するデータベース化への整備、通産省による 3 年に一度の業務監査への準備などなど、ほかにもいろいろ目白押しです。

昨年のことを振り返って、いくつか列記しましたが、新年の JID の最大関心事は、今秋に開催される「IFI '95 名古屋／世界インテリアデザイン会議」に集約されます。このビッグイベントに対して JID は、実施 8 団体の中で最も主導的に、行動していかなければならないところにいます。そして、1 人でも多くの会員が参加することによって、「新しいうねり」をつくり出さねばなりません。

確かに、名古屋以外の人が参加しようとすると、登録

料、旅費、宿泊費などで、相当費用もかさみます。でも、またとない機会と認識して、少しずつ貯金して（経済的）、また、その時には仕事の手を休め（時間的）、こぞって参加するようにしましょう。

ご覧になった方も多いと思いますが、今一度「にっけいでざいん」1994/12 月号 92～103 頁の、JID 会員に対するアンケート結果をご一読ください。そして、皆様とこの 1 年を有意義に過ごしたいと考えています。

“世界のインテリアデザイナー作品集” 作品募集始まる

本部・出版委員会副委員長 山田 晃

出版委員会では、JID 発足以来、初の会員作品集 IFI '95 NAGOYA「世界のインテリアデザイナー作品集」を企画検討してきた結果、このたび出版する運びとなりました。

つきましては、会員各位の、日頃のデザインワークを募集し、中身のある作品集にしたいと考えております。詳しくは、近々に募集要項がお手元に郵送されますので、必ずご覧下さい。

昨今、色々な組織や協会、団体が設立されるなか、一番長い歴史を持つ、日本インテリアデザイナー協会における会員各位のデザインワークを、情報交換する媒体が無く、JID の会員であることのメリットが、あまり感じられないという意見も聞かれます。そこで、今回の作品集をきっかけに、JID の存在と実際のデザインワークを通して、多くの方に認識してもらい、又、会員同士のデザインネットワークのツールとして、活用できるものに完成したいと考えています。

又、この作品集は、「IFI '95 NAGOYA 世界インテリアデザイン会議」の記念出版としても考えており、世界各国のインテリアデザイナーの作品も同時掲載され、日本はもとより世界 27 ヶ国で同時販売されます。JID 会員各位の作品が、世界に知られるまたとないチャンスになると思います。さらに、作品掲載者全員の作品は、「IFI '95 NAGOYA 世界インテリアデザイン会議」の会場と東京でパネル展示される予定になっており、会場に訪れる多くの人の目に触れることになり、自己アピールの効果も大と考えられます。

いずれにしても、第1回の作品集企画出版の成功は、第2回、3回につながると考えており、継続させることが大切だと思いますので、会員各位の多くの参加が、必要不可欠です。奮っての参加を期待しています。

「IFI '95 名古屋」に向けて 会員拡充にご協力を！

本部・組織委員会副委員長 下島 資子

12月2日（金）、大阪デザインセンター会議室にて、第2回本部・組織委員会全国会議が開かれた。

長岡理事長、栢原（組織担当）副理事長同席のもと、浅田担当理事、全国各支部の組織委員長等の白熱した意見が交わされた。今後のJIDの組織に関する提議の中、今回は間近にせまった「IFI '95 名古屋」対応の会員増強対策に議論が集約され、具体案の討議に入る。以下、その内容を要約し、会員のご理解とご協力を期待したい。

会員増強に対し、質と量かの問いかけもあろうが、やはりマンパワーあつての質ある人材の抽出であり、さらに重要なことは、マンパワーそのものが協会の活性化と、職能団体であるJIDらしい連係プレーアクションは、他団体との差別化ともなろう。今回の増強は、IFIに向けて、「前向きなJIDづくり」に絶好の機会でもあろう。

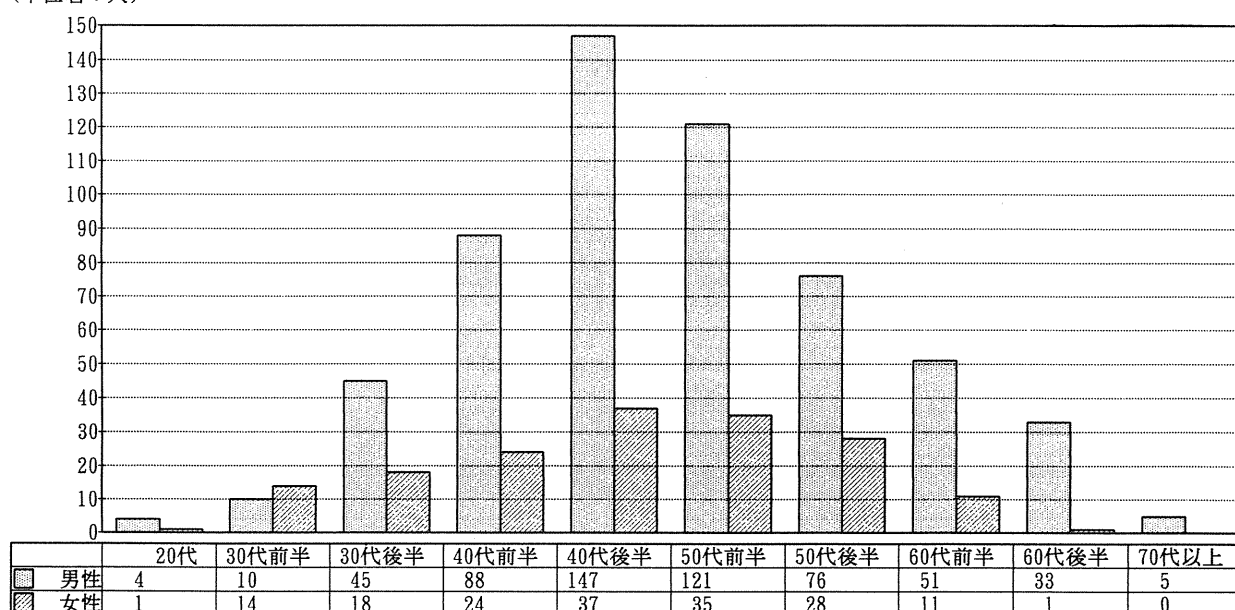
う。多数の協会が乱立する中、35年有余の歴史を持つJIDも、ここに来て、さらに協会の特色と社会への役割りが明瞭化されなければならない。

協会を内外に説明しやすく、現会員1人1人が、会員である社会的座標軸を見据えていなければ、新会員を誘うことはできない。そのための具体的アクションとして、つぎの3つのことを会議決定した。

1. 本部、支部の風通しのよい会員拡充意識を持つために、これらに関する本部委員長（総務・広報・交流）の参同を求め、「わかりやすいJID」の刷りものを至急作成することになった。これは現在のJID案内書に補足の形でさし込むものであり、当然単独でも多に活用できるものである。
2. 各支部の機関誌を通し、「組織コラム欄」を設けられたら、1人でも多くの人達に入会してもらえないかという案である。これは、各組織委員長が支部に持ち帰り各出版委員会と検討することになった。
3. 年度末（'95年3月）までの増員数の目標決定をした。理事の方々には、特に率先した拡充を依頼し、各支部組織委員長も自ら数値を出し、45名以上確保することを決議した。

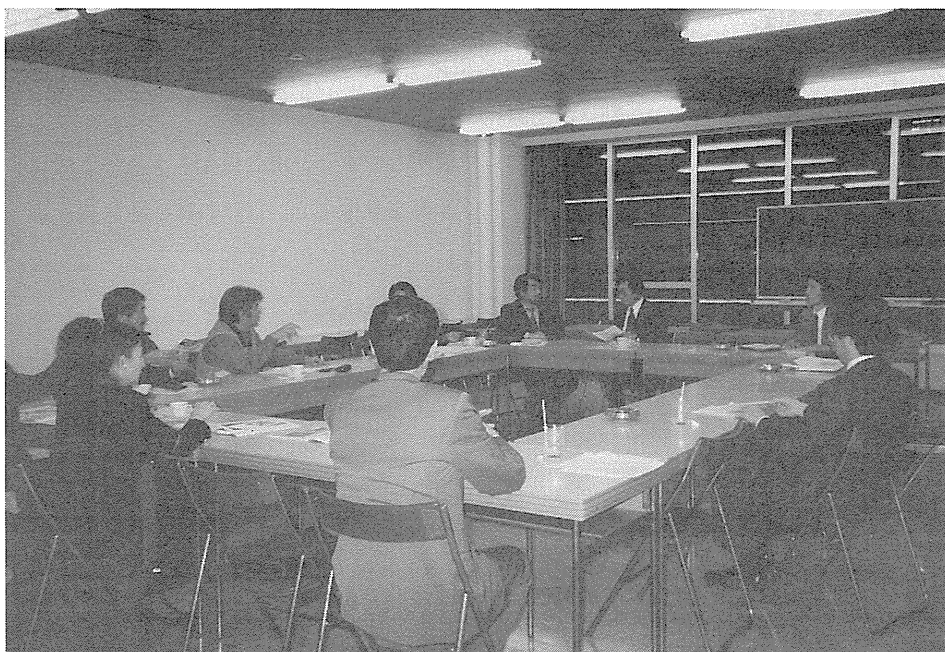
こうした切迫した中、「IFI '95 名古屋」成功につなげるためにも、早急に行動を具体的に起こさなくてはならない。こうしたことも、とりあえず…という意味あい

（単位名：人）



「JID 正会員年代別会員構成」

この表は、本部事務局の協力を得て組織委員会がまとめたもの。現役年代が主流で、JIDの質の高さが伺える。今後の課題は、継承する20代、30代の増員であろうか。（'94年12月末現在）



本部・組織委員会全国会議、「会員拡充」について集中討議

「おしらせ」

1. 第5回世界会議「住居と高層建築－伝統と革新－」（高層建築と都市住宅協議会主催）が、1995年5月14日～19日、アムステルダムで行われる。高層建築が増えてきているヨーロッパで、世界トップの建築関係者が集まって、会議を行なうところが今回の重要点。（事務局にパンフレットがあります）

また、この会議の一環

ではなく、これを機会に私達の職能を生かし、さらに発展するための基盤づくりとして、今後とも長期的展望のもとで、担わなくてはならないのであろう。

1人でも多くの会員を誘うために、IFI'95の国際会議や多くの国際的イベントに参加し、内外の同志と友好を深め、インテリアデザインの社会的必要性の認知度を広げるために、楽しく「IFI'95名古屋」に参加するよう呼びかけたいものである。

1人1人の意識が協会を支えること、それ以外にJID強化はありえないことを最後につけ加え、そのためには、時代性に合った将来の展望を、組織委員会と会員1人1人が融合して考えていかななくてはならない。特色あるJIDをアピールし、発展させるために、小さな力の集結が問われる時代にきている。

国際委員会の活動と海外情報3件

本部・国際委員会委員長 中川 千早

1. JIDの活動を外国に知らせる。
2. 外国から来るニュースを会員に知らせる。
3. 「IFI'95名古屋」の支援活動をする。

以上の活動を中心に行きます。1. に関して相手先（海外組織、図書館、メディアなど）の推薦をしてください。

として、IFIが“Living on the Top of the World”と題して写真展を企画する。JIDは高層ビル内の住宅、公共スペース、オフィスインテリアを取り上げた写真パネルを提供する。該当する写真をお持ちの方は事務局にご連絡ください。（詳細次回）

2. IFIシンシア・ウィルソン事務局長は、11月15日～20日、「1994年家具展覧会」（モスクワ）に招かれて訪問した。ロシアには、まだインテリアデザイナー協会がない。組織化への強い関心を受けて、国際的な関係樹立に向け、IFIが支援することを約束した。
3. IFIクロード・ベルーベ理事長は、11月インドを訪問した。IIID（インドインテリアデザイナー協会）のシンポジウムに参加し交流した。IIIDは12月22日～26日に、「国際インテリアデザイン展覧会」を開催する。

賛助会員について

本部・交流委員会委員長 斉藤 武行

日本インテリアデザイナー協会と賛助会員との関わり方は、過去において多大のご協力を得、会員との交流も含め、非常に大きな力として、その存在は衆知の通りです。

しかしながら、賛助会員に対する協会の企画、情報、

イベントなど、決して満足のいく内容でないことも事実として耳に入ってきます。

今秋の「IFI '95 名古屋」の開催は、協会、会員、賛助会員が一体となり、関連業界も含め大きな力で世界へ発信するまたとないチャンスです。そんなことから、今後の賛助会員の在り方と協会との関わり、協会から賛助会員へのギブアンドテークの思いなどを語りながら、賛助会員部会といったような組織づくりをはじめ、協会への要望や関わり方、意志の疎通の仕方、社会への発信の仕方などを十分に語り合っていくつもりです。過去の大きなイベントの際には、賛助会員の方々に、多大な協賛金をお願いしていた事実がありますが、協会に対して、対投資効果が少ないと聞きます。今後はこれらを是正し、太いパイプで結ばれ、一体となった活動が出来るよう、交流委員会だけではなく、組織委員会ともタイアップし、進めて行きたいと思っておりますので、会員各位のご協力をよろしくお願いいたします。

関東事業支部の動き

関東事業支部副支部長 石井 三雄

●賛助会員と会員の合同新春交礼会

'95年1月20日(金)新宿パークタワー8階において、関東事業支部恒例の賀詞交歓会。組織委員会と交流委員会とが中心となって、開催決定。今回は賛助会員との一層の交流を図るため、「パーティエリア」と賛助会員の「インフォメーションエリア」の、隣接する2つの会場をドッキングした「'95 NEW YEAR'S PARTY」を企画した。これにより、賛助会員と会員の交流の絆を、より強めることと、'95年10月に名古屋で開催されるアジアで初の「世界インテリアデザイン会議」成功のための支援イベントを兼ねた新春交礼会と位置付けている。

●海外ツアー及びセミナーの開催

国際委員会では下記のイベントを計画している。

・ドイツ 8日間の旅(研修)

高齢化社会に向けての対策や弱者への対応が注目されている昨今、その先進国として、ヨーロッパ、北欧諸国が知られている。今回はノーマライゼーションをテーマにドイツの街中や、工場、福祉施設などで健常者、非健常者が等しく活動出来るバリアフリーの状況視察を計画している。

日 程 '95年3月19日～26日(8日間) 予定

旅 費 20万円前後

問い合わせ 国際委員会 金杉/佐藤まで

●セミナーの件

上記「ドイツツアー」に先駆けて下記を企画。

日 時 '95年2月上旬(予定)

講 師 林 英次氏 (株)アクシス顧問

インダストリアルデザイナー

テ マ ^{リケンノケン} 離見の見(日本を外国から離れて見る)

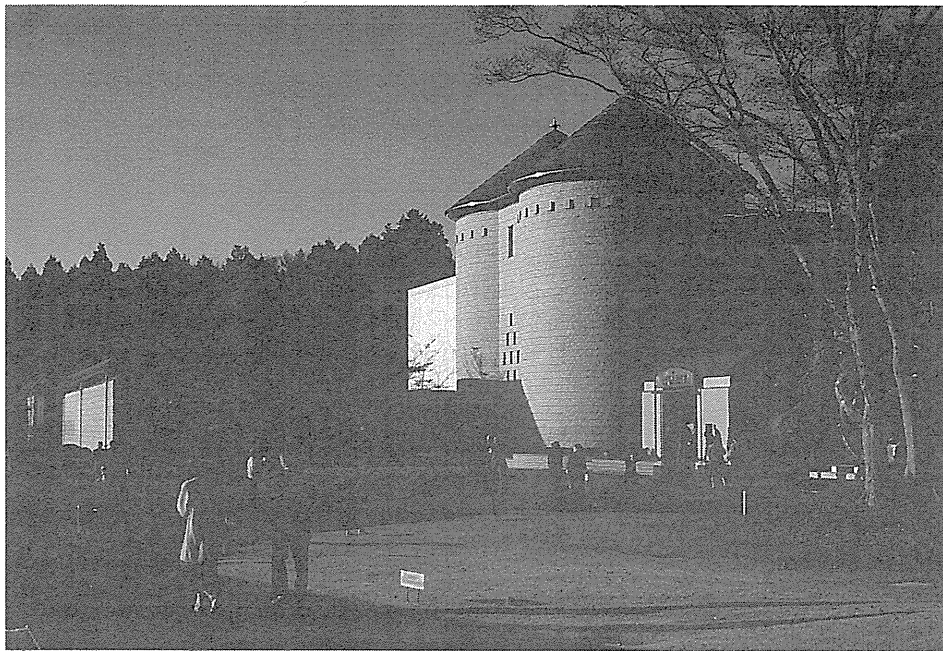
ドイツ、中国、アメリカなどの他国を訪問。バリアフリー状況から日本のデザインを語る。

●JID 建築バスツアー「R-90 竹中技術研究所」ほか

平成6年11月30日、暖かい陽ざしの中、40名参加の関東事業支部交流委員会「JID 建築バスツアー」が行われました。



JID 建築バスツアー参加者 R-90 竹中技術研究所前にて 撮影・荒居康明会員



川村記念美術館 撮影・荒居康明会員

美術館を後にしたのです。

帰り道、長 大作さんが白鳥と話をしている、口ばしであごを“ツン”と KISS されるハプニングを残しながら、交流委員会恒例のバスツアーが終了しました。

是非、次回も皆様のご参加をお待ちしております。

(関東・交流委員会委員
鎌田 博子)

行先は千葉県印旛郡印西町、'94 年「JID 賞」を受賞した建築家・赤坂喜頭氏の設計、「R-90 竹中技術研究所」。

千葉ニュータウンの造成地に、先端的な建築技術の研究と開発を目的とした研究施設です。

大地に埋れたような直径 153m の円などの、白い幾何学形態で構成されている建築を見たときの驚きは、人間の力強さを呼びおこしているようなものでした。

中庭を一気に横断する 40m 無柱の超高強度コンクリートスーパーブリッジが、白い建物にひときわ美しく象徴的でした。しかし、このスーパーブリッジで少し、いや、かなり体重オーバー(?)な 2 人の方が飛びはねて見せ、その体感印象を聞きながら、下で 38 名が口をあけて見上げている様子は、人間的なおかしさ、やはり最先端は“人”であると妙に感心したのです。

さて、バスの旅は「国立歴史民族博物館」、「川村記念美術館」へと続きます。

「民族博物館」では、日本文化を学ぶという目的でしたが、スケールが大き過ぎ、2 時間足らずのかけ足の見学となりました。

心・身・頭・共、疲れ果て、行き着いたのは佐倉の地に建つ「川村記念美術館」、陽がすすきを照らし、美術館を包みこみ、樹木を池に映し出すそんな風景は、R-90 とはまた違った驚きを与えてくれました。この豊かな地で、静かに、横山大観やレンブラントを堪能し、

中部事業支部の動き

中部事業支部副支部長 安藤 清

あけましておめでとうございます。

'91 年 6 月 IFI シカゴ大会で、4 年先の名古屋開催決定の報告を、半信半疑で聞いて以来、月日はかけ足でやってまいりました。開催地がたまたま「デザイン都市宣言」を行った名古屋であって、JID オールメンバーのボランティア精神で始めて成功するものと、年頭にあたり思いを新たにしています。

昨年の中部事業支部はいままでになく燃えました。グラスゴー大会の反省会に始まり、6 月の会員展「インテリアの風」とシンポジウム「風土に育つ木の文化」8 月の関東事業支部会員との交流ツアー「桑名の石取祭」9 月の飛騨高山「木のふれあいフェスティバル」への参加。ハイライトとして、10 月の IFI '95 プレシンポジウムに関連する支援活動、併催として「インテリアの風」Part 2「同金沢展」他といままでにない盛り沢山の事業が行われました。

またまた IFI '95 の話しに戻りますが、開催年を迎え、デザイン情報誌「につけいでざいん」の新春特集/求心力、発信力を持てるか「世界インテリアデザイン会議」の内容を、もう一度真摯に受け、会員 1 人 1 人のホスピ

タリティが関係各位の心を動かしめ、成功への評価を受けることと確信いたします。近年のオリンピック運営を参考にしても、やはりビジネスとしての運営意識を、会員全員が持ち、多分野にわたるインテリア関連事業主の方々への広いPRと協力の呼びかけが、我々インテリア関係者のボトムアップにつながります。そして、各人の参画意識のパワーの姿勢が、若い方への鏡となり、支部会員20%増強にも結びつくのではないのでしょうか。

学生、一般の参加意欲を盛り上げ、ホストシティーとしての自覚を年頭にかかげ、繰り返しこの言葉をいい続ける1年でありたいと思います。

関係各位の更なるご協力をお願い申し上げます。

関西事業支部の動き

関西・総務委員会委員長 山崎 晶

あけましておめでとうございます…と書き始める今は平成6年12月8日です。正月ビデオの録画撮りみたいなもので、少々やらせをしませんと辻褄が合わなくなりますが、こればかりはそうもいかず、なんとも書きにくいところです。

前号で千田支部長が総括して報告されましたが、昨年(今年)の関西は、各委員会がそれぞれ独自のコンセプトを持って、活発に事業を展開していったことに、大きな特徴があるといえましょう。

12月、「ECHO」は15号を発行しました(します)。教育・研究委員会は11月25日、映画監督・大阪芸大映像学科教授・中島貞夫氏をお招きして、「映画とデザインメディアの二面性」をテーマに講演会を開催いたしました。これは同委員会の〈インテリアデザイナーの職能の範囲の確立〉を、オリジナルな基本テーマとした活動の一貫として催されたもので、映像の世界から見たインテリアの世界についてのお話は、40人に及ぶ参加者の大きな共感を呼びました。

今年(来年)の目玉は、展覧会委員会の企画するJID関西事業支部「展覧会」ですが、2回のアンケート調査を踏まえて12月、展覧会フォーラムを開催(いたします)。日頃の仕事をより高く追求するのによし、この時とばかりに、造形意欲を駆り立てるのによし、さ

まざまな思いがぶつかりあって、活発な意見の交換が展開されました(期待されます)。

「IFI '95 NAGOYA」での関連展示「日本の木の椅子=予定」に連携して、「座・すわる・すわり」をテーマにすることは是非。IFI '95 NAGOYA「展示会」との関わり方、製作・会場・運営費など問題は山積みの状況ですが、久しぶりの展覧会として期待は膨らみます。なにを感じ、なにを人に訴えるか、さまざまな切り口から、日本のインテリアデザイナーの新しい提案が楽しみです。

IFIも更に近くなろうというものです。

(よい年をお迎えください。)

九州事業支部の動き

九州・交流委員会委員長 酒井 博幸

●九州デザイン・コンペティション報告

新しい生活文化を創造する「活」のあるデザインをテーマに、11月25日～27日まで福岡放送センターで行われた。九州デザイン協議会、九州通産局の主催で、生活に関わる広い範囲からのコンペであった。支部から、森田、中川、鐘ヶ江3氏の受賞入選があった。

また協賛展示として、JIDの九州事業支部展、九州グラフィックデザイナー9人展、九州クラフトデザイナー協会展、併催として、国際デザイン・コンペティション優秀作品展が行われた。

●国際デザイン・コンベンション'94大川

日本産業デザイン振興会と大川市が、市制40周年記念事業として11月29日に開催した。基調講演にマイケル・マッコイ氏。分科会として1.国際 2.産業 3.環境を以下のように行った。

1. 国際 デザイン本来の自由で感性ある思考を、国際的視野で考える。

パネラー長岡貞夫、マルノ・グディクセン、宮本茂紀、コーディネーター鈴木恵三、ディレクター佐々木敏光。

- 2 産業 今までにない社会現象・産業とデザインについて考える。

パネラー岡本義行、川上元美、清水忠男、広松嘉明、コーディネーター岡田紘史、ディレクター鐘ヶ江茂則。



鹿児島デザイナーとJIDメンバーとの意見交換



南九州研修旅行参加者

3. 環境 色彩感覚をキーワードに、こちよい環境を創造する。

パネラー宮内博実、吉田考次郎、シュガル松野タティアナ、コーディネーター宇佐波徳美、ディレクター、工藤 卓。（長岡理事長を始め JID より 4 名の登場となった。）

●南九州研修旅行

11月18日～19日「環境とデザイン・地域文化との交流」というテーマで行う。参加者14名。磯珈琲館 2F サロンで研修講演を行い、風土と建築、薩摩斎彬の集成館

事業と薩摩切子の認識を深め、鹿児島市内見学、ホテルチェックイン後、交流会場に向かう。

今回の研修旅行は、支部でも会員が少ない、宮崎や鹿児島でデザイン活動を行っている団体との交流を図り、JID の認識を深め、さらに活動を知ってもらう意図もあり、鹿児島デザインフェア実行副委員長の松下清志氏の会議室をお借りして交流会を行なった。会議室は専門店並のカラオケルームやバーカウンターが設置されており、交流会後のパーティはその施設を活用、最高に盛り上がった。2日目は、宮崎シーガイア・オーシャンドー

ムと綾町の照葉大吊り橋などを見学、感動のうちに解散となった。

「IFI '95 名古屋」の近況と今後の準備計画

中部・担当理事
IFI 運営会事務局長 宇賀 敏夫

昨年 10 月 14 日の IFI '95 NAGOYA の「プレシンポジウム IN 東京」を皮切りに、10 月 18 日の名古屋でのプレシンポジウムその他、IFI 理事を迎えての行事も、とどこおりなく無事成功裡に終了したことは、11 月の「JID ニュース」11 月号に掲載されておりますので、ここでは、「IFI '95 名古屋運営会事務局」のこれから
の主な計画をご案内いたします。

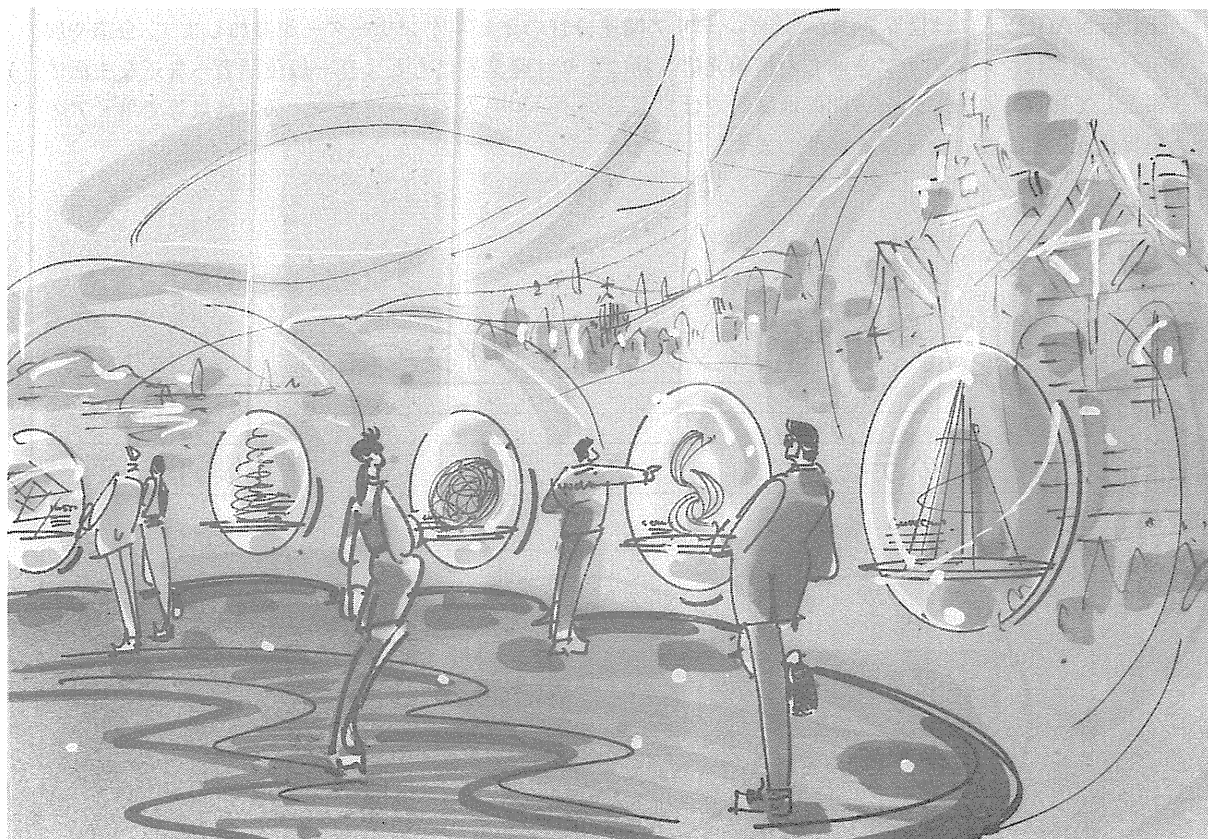
7 月に発刊された第 1 次サーキュラーの内容は、「IFI '95 名古屋」でのイベント行事の総合的な案内であるため、具体的な各行事の内容には触れていません。

各国の IFI 理事から、強く要望のありました事項、即ち宿泊費の安いホテルの案内やホームステイ、企業の宿泊施設、登録参加費、各シンポジウム分科会のテーマなど、現在まで決定された具体的な内容を「IFI ニュース

レター」として、昨年のクリスマス前に、世界各国の関連デザイン団体やデザイナー各位に到着するように発送いたしました。恐らく、会員各位には、この 12・1 月号と共に発送されると思います。

次に重要なことは、「IFI '95 NAGOYA」開催に向けて、各委員会即ち「総務委員会」は参加動員計画の推進、「プログラム委員会」は講師、セッションディレクターの人選、「交流委員会」はパーティ会場使用条件交渉、「事業委員会」は展示会出展、関連事業の内容計画、「IFI 支援委員会」は総会接遇計画、「広報委員会」は CI ツール、広報媒体への働きかけ、会場サイン計画など盛りだくさんの仕事があり、「事務局」にとっては、一番重要な資金計画があります。この不況下、各企業へのこの資金への協賛依頼のお願いは、大変苦労のかかる仕事ですが、各事務局員が手分けをして、この予算計画達成に努力しています。また、今年 3 月には、最終の第 2 次サーキュラーが配布されますが、これは、それぞれの催事の内容が、明確に決定されたものとなります。ぜひ参加して頂くようにご期待申し上げます。

なお、以下に現在公表されている「国際インテリア・デザインフェア」の開催概要を掲載いたします。但し、協賛企業などの都合によっては、一部変更もあります。



IFI '95 名古屋「国際インテリア・デザインフェア」グローバル インテリア/テーマゾーン イメージパース

〔 国際インテリア・デザイン・フェアの概要 〕

■開催期日：1995(平成7)年10月4日(水)～10月8日(日)〈5日間〉

■開催場所：名古屋国際会議場

(イベントホール、白鳥ホール他)

■開催趣旨

(1)インテリアの新潮流にふさわしい、

画期的な展示方式『トータル・インテリア・プレゼンテーション』を採用

従来のように主催者側の提案(テーマゾーン)、出展者(企業展示)、さらに情報を享受する来場者といった立場が明確化された方法ではなく、人とモノとのインターフェイスとしての『インテリア』にふさわしい、新しい展示手法を採用します。統一したコンセプトのもとに、各分野での躍進がめざましい企業・団体に素材とノウハウをご提供いただき、調和のとれた空間全体で新たな提案『トータル・インテリア・プレゼンテーション』を行ないます。世界各国、地域の産業等が各々の特性を活かしつつ、豊かな交流の成果として発信される情報は、まさに生活者の立場にたった生きた生活文化であるとともに、インテリアの新潮流にふさわしい内容となることでしょう。

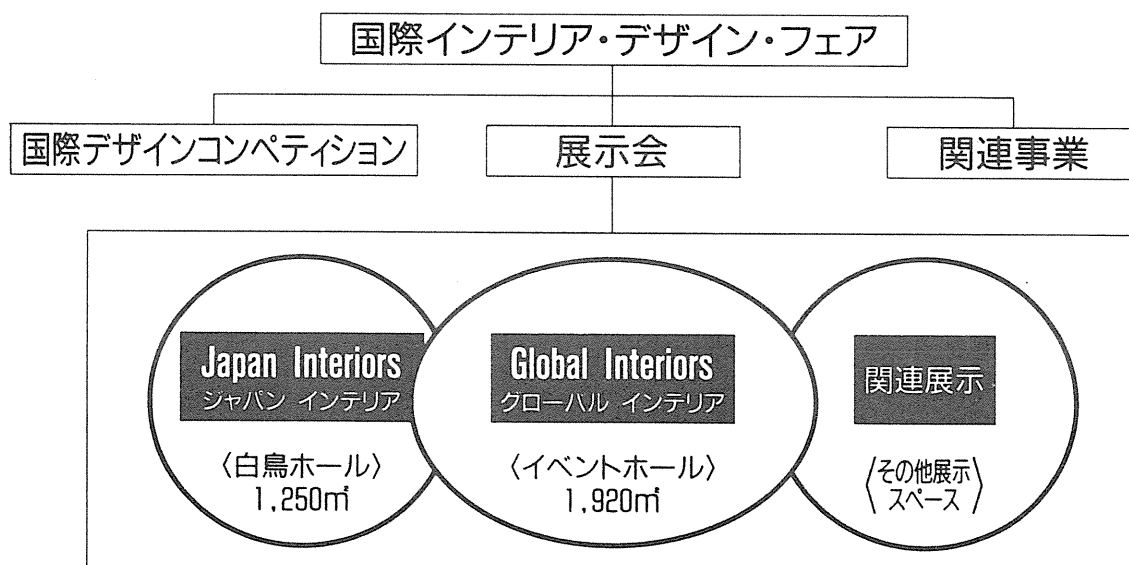
(2)世界の“いまとあした”、そして地域の伝統・歴史に根ざしたデザインまで幅広く展示

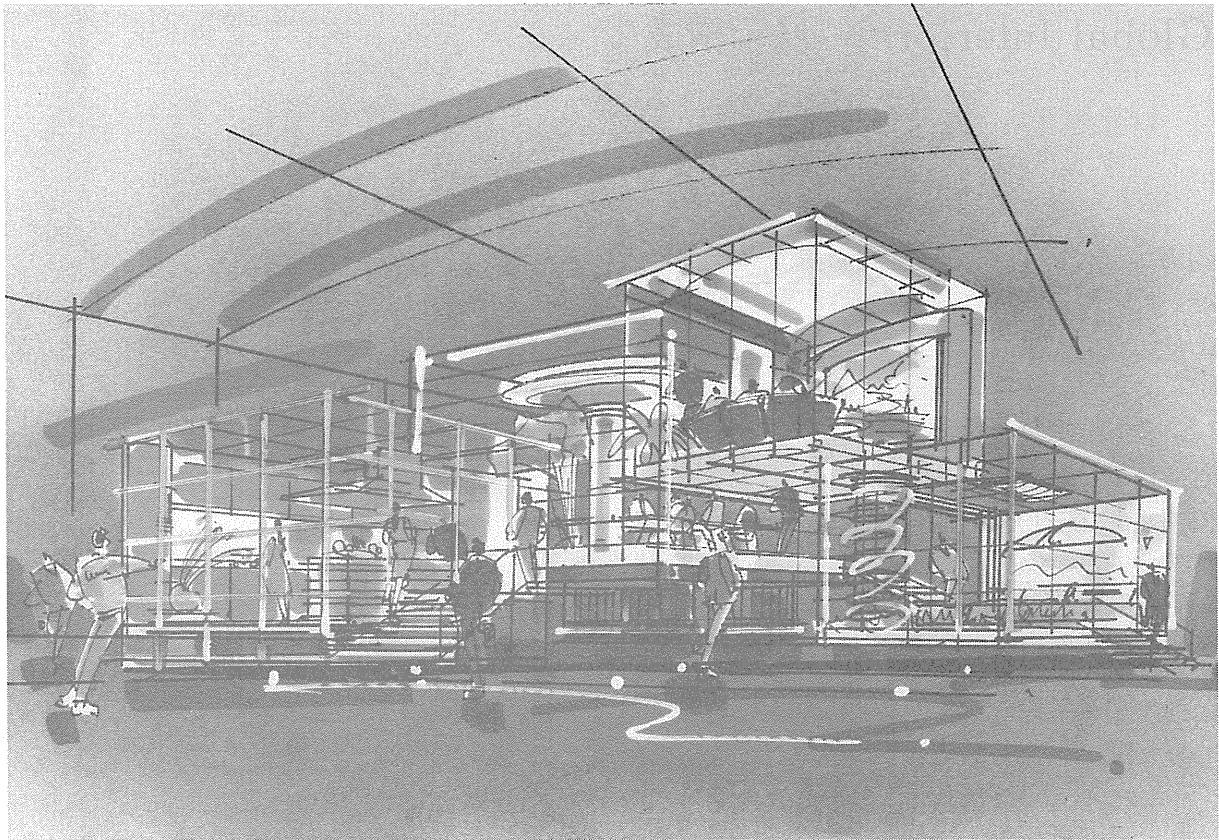
アジアで初めて開催される会議にふさわしく、地球的な視野から見た拡大するインテリアデザインの最新情報とともに、開催地域(愛知・名古屋)に根ざした伝統的なプロダクツ、日本人の精神文化とともに発達したデザインなど多角的な内容で展示構成します。

(3)世界へ街角へ広がる、インテリアのNEXT WAVE

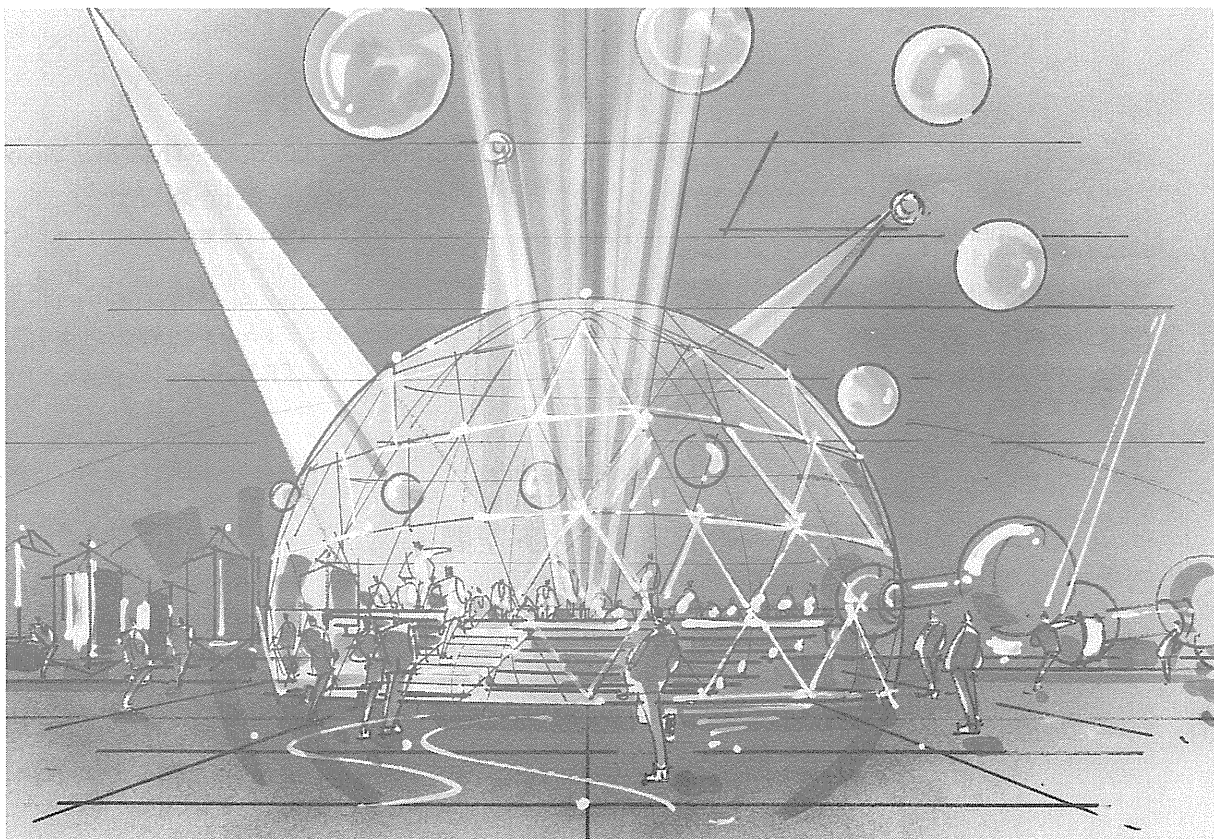
IFI'95 NAGOYAには世界各国から、インテリア関連分野のオピニオシリリーダーが参加します。会議や展示会の内容はマスメディアを通じた情報発信活動により、産業界はもとより一般生活者へ身近な生活情報として届けられます。一方開催地域内では、企業ショールーム・ギャラリー・公共施設等でフェアの趣旨に連動した様々な催事を展開します。

■概 要





IFI'95名古屋「国際インテリア・デザインフェア」グローバル インテリア／実験的生活提案ゾーン イメージバース



IFI'95名古屋「国際インテリア・デザインフェア」グローバル インテリア／感覚空間体験ゾーン イメージバース

■ Global Interiors – 展示構成

Floating Globe & Floating Design 空中インテリアゾーン

「浮遊する地球、浮遊するデザイン」
をテーマに空中をデザインする。

Theme Zone テーマゾーン

・柔らかに優しく「包まれる」空間感覚とともに、世界のトップデザイナーによる「近未来インテリアオブジェ」を展示。

Experimental Interiors 実験的生活提案ゾーン

・近未来型住宅を想定し、その一部を構成するインテリア空間(リビング、ベッドルーム、キッチン&ダイニング、バス&トイレ、ホームシアター)を実験的にデザインする。
・先端技術と伝統技術が融合するこの実験空間は次世代住宅のプロトタイプモデルとなる。

Interior Front Now デザインコレクションゾーン

・現代のインテリアデザインシーンをリードしているデザイン(プロダクト)を国内、海外から選抜・展示。

Interior Theater ～The Simulation Globe 感覚空間体験ゾーン

・「宇宙船地球号」という概念を提唱したアメリカの偉大な建築家バック・ミンスター・フラーの思想に基づいた構成・演出。
・円球型シアターにて、「視覚」「聴覚」「嗅覚」「味覚」「触覚」の人間の五感を刺激する体験空間を実現。

Colors & Materials～The New Vision 自然感覚提案ゾーン

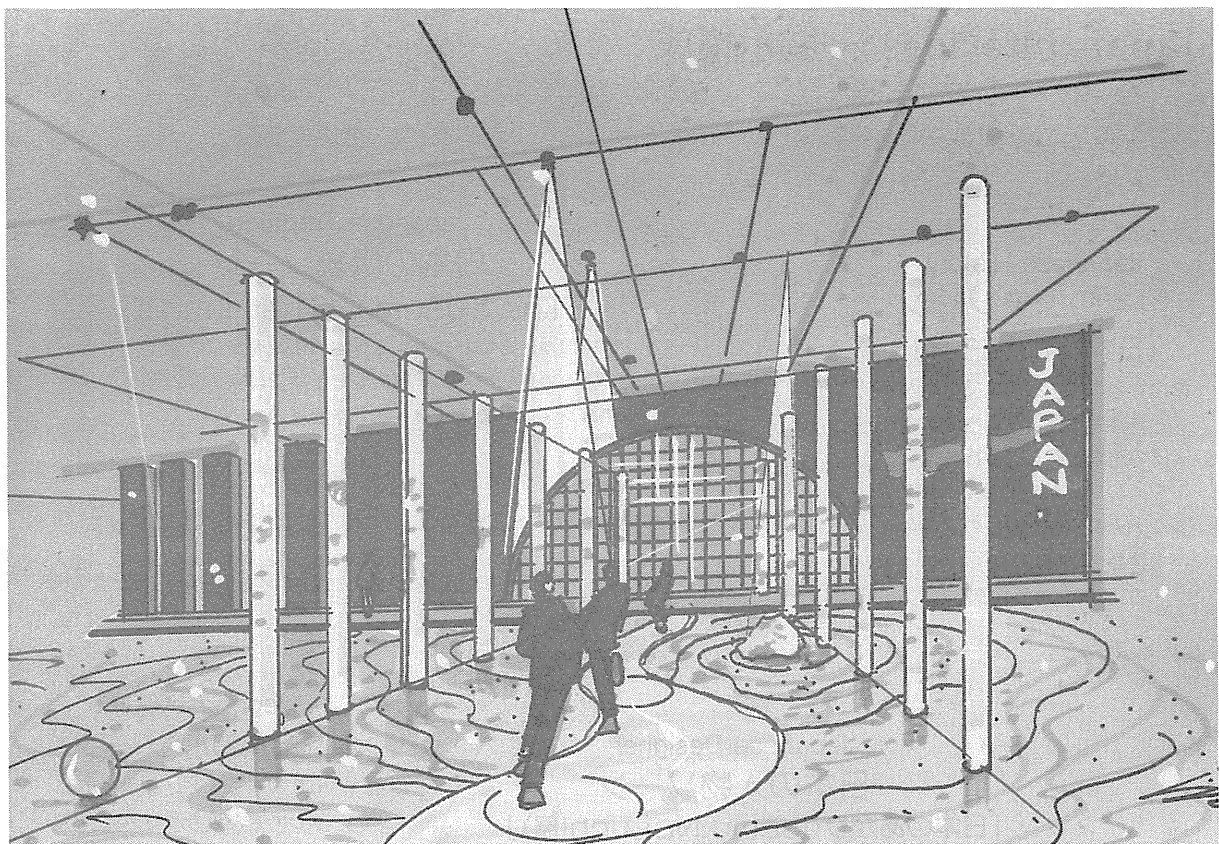
・地球環境に対する意識の高まりの中、「自然」をモチーフとした「色彩」「素材」に関して、世界的に著名なバリの専門家集団「トレンドユニオン」が立体空間サンプルとして提案。

Documentary ～The World Interiors 映像交流ゾーン

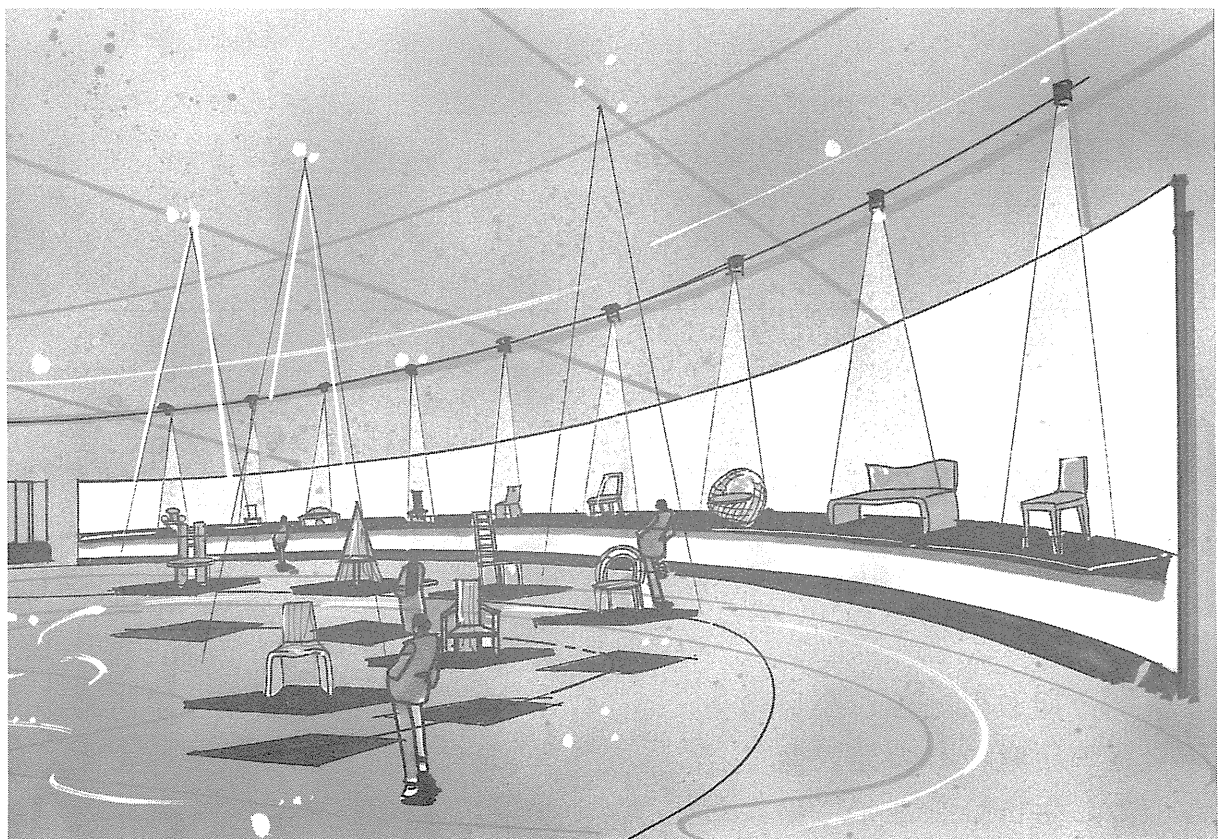
・「世界インテリアデザイン紀行」をテーマに、世界に存在するインテリア空間を映像として取材・収録し、展示会場にて公開。

Media & Interiors ～The Space Mix 近未来メディア空間 提案ゾーン

・「メディア (マルチメディア)」と「インテリア」の融合を目指す活発な先端事例を具体的な空間提案として展示。



IFI '95名古屋「国際インテリア・デザインフェア」ジャパン インテリア／日本の心ゾーン イメージベース



IFI '95名古屋「国際インテリア・デザインフェア」ジャパン インテリア／日本の歴史ゾーン イメージベース

■ Japan Interiors – 展示構成

Japanese History 日本の歴史ゾーン 「日本の木の椅子展」

～源流から近代・現代までの集大成～

- ・日本で製作された木製小椅子の調査・収集・分析・復刻を通して日本の生活文化を探り、その成果を国内のみならず世界へ発信。
- ・約150脚の展示を予定。

Japanese Tradition 日本の伝統ゾーン

「The Fusuma・The Nuno展」

- ・中部地区をはじめとする日本の伝統産業にスポットを当て、その地域の風土・歴史そして生活に密着したインテリアエレメントである襖と布を空間展示。

Japanese Designer 日本の人物ゾーン

「日本のあかり(Isamu Noguchi展)」

- ・日本の岐阜提灯を近代化し、国際的に知らしめたベンダントスタンドを中心にイサムノグチの世界を展示。

「木の世界(George Nakashima展)」

- ・手仕事の伝統技法により新たな創作活動を行なった、世界的なハンディクラフトマンとして知られるジョージナカシマの「木の世界」を展示。

Japanese Spirit 日本の心ゾーン

- ・日本の風土と、日本人が伝承してきた思考や好みについてインテリアの視点から紹介展示する「Japan Interiors」のアプローチゾーン。

登録研究制度のテーマ募集

本部・教育・研究委員会委員長 中田 重克

今期も引続き、会員の皆様の研究やその発表会などのお手伝いをさせていただきます。現在研究中、ある

いはこれから始める方、ぜひ、そのテーマを登録してください。詳しくは「JID ニュース」1993年9・10月号 P.15 に、「JID 登録研究」の主旨、登録要領、申請書式などが掲載されています。お問い合わせは、

☎0478-86-4186 中田まで。

【 会 員 の 異 動 】

● ご面倒でも「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正下さい。

● 正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
樋 口 治 (関東 P 38)	自宅移転	兵庫県神戸市東灘区深江北町 1-2-1 ダイドーシティ芦屋Ⅳ、201 〒658 TEL 078 - 412 - 1900 FAX 078 - 412 - 1905
楠 本 厚 (関東 P 73)	事務所開設	楠本デザイン研究所 東京都品川区小山 7-15-16 〒142 TEL 03 - 3786 - 0167 FAX 03 - 3786 - 7300
斉 藤 正 昭 (関東 P 82)	自宅移転	東京都台東区千束 3-5-9 〒111
佐 藤 弘 光 (関東 P 85)	事務所移転 自宅移転	東京都新宿区新宿 2-4-1-1001 第22宮庭マンション 〒160 TEL 03 - 3354 - 4000 FAX 03 - 3354 - 4088 東京都杉並区成田西 3-5-12 〒166 TEL 03 - 5306 - 0600 FAX 03 - 5306 - 0100
佐 藤 雅 樹 (関東 P 85)	部署 事務所移転	ヤマハ(株) 法人営業推進部 東京都港区高輪 2-17-11 〒108 TEL 03 - 5488 - 6721 FAX 03 - 5488 - 5071
土 屋 晃 一 (関東 P 103)	事務所移転	静岡県静岡市池田 1171-3 〒422 TEL 054 - 263 - 0708 FAX 054 - 263 - 0881
中 山 博 文 (関東 P 110)	勤務先	(株)マノレジア 営業部 東京都港区南青山 5-6-5 〒107 TEL 03 - 5485 - 0196(代) FAX 03 - 5485 - 0199
中 里 信 正 (中部 P 155)	自宅移転	愛知県名古屋市瑞穂区石田町 1-49 メイツ瑞穂公園 103号 〒467 TEL 052 - 853 - 7138
谷 川 剛 (関西 P 177)	事務所移転	大阪府大阪市北区豊崎 5-4-9 商業第二ビル 4F 〒531
足 田 友 一 (関西 P 182)	転勤	(株)高島屋工作所 大阪事業所 京都事務所 設計担当課長 京都府京都市中京区新京極通四条上ル仲之町 538-1 京極東宝ビル 5 F 〒604 TEL 075 - 252 - 7282 FAX 075 - 252 - 7269



第14回 インテリアファブリックスショー

JAPANTEX'95

幕張・インテリアメッセ

1月25日[水]ー28日[土] AM10:00-PM5:30 (最終日は4:30まで)
入場料/1,000円 (セミナーは別途)

**受講者
募集中**

毎回好評を博しているインテリアビジネスセミナー
今回は**40講座**に拡大して開催!

- 主 催／社団法人 日本インテリアファブリックス協会
- 後 援／通商産業省 関東通商産業局 日本貿易振興会 出展国駐日大使館
- 会 場／日本コンベンションセンター (幕張メッセ) 東京駅からJR京葉線で直通30分
- 特別催事／実践! 第3回インテリアビジネスセミナー全40講座 [有料]
第5回ファブリックデコレーションの提案
住まいのインテリアコーディネートコンテスト'95
第26回全国インテリアファブリックス作品コンテスト

JAPANTEX'95は「95東京国際家具見本市」('95.11.22~11.25 晴海)を応援しています。

- 受講券1枚 1,500円 2枚以上1枚につき 1,000円 当日券1枚 1,500円
- 当日ご欠席の場合返金できませんのでご了承ください。
- 入金後の返金はできませんのでご了承ください。
- 各講座共に定員になり次第締め切らせて頂きますのでご了承ください
- 当日空席があった場合に限り各講座毎各受付にて受付いたします

■プログラム 総合受付窓口 国際会議場201号室前

1月25日(水)	201号室 (140名)	-----	25-A「テーマゾーンの解説“ニューインテリア考'95”」 13:00~14:30 (株)日本カラーデザイン研究所 通江義典氏	25-E「床施工クレームの実際と対応策」 15:15~16:45 愛床コンサルティング 吉野孝氏
	302号室 (100名)	-----	25-B「世界の一流ホテルのインテリア」 13:00~14:30 (財)店舗システム協会 高山れい子氏	25-F「インテリアと照明」 15:15~16:45 (株)ハロデザイン研究所 中島隆雄氏
	303号室 (100名)	-----	25-C「住宅産業と今後のマルチメディア」 13:15~14:45 日製産業 (株) 清水卓朗氏	25-G「手織りだんつうの動向」 15:30~17:00 フジライトカーペット (株)
	304号室 (70名)	-----	25-D「医療施設のメディカルカーテン」 13:15~14:45 (株)サンゲツ	25-H「新しいスタイルカーテンの呼び方」 15:30~17:00 NIF表示共同化委員会 杉山哲三氏
1月26日(木)	201号室 (300名)	26-A「これからのインテリア専門店」 11:00~12:30 (有)インテリア情報企画 番明徳四氏	26-E「リビングデザインセンターOZONEのコンセプト」特別講演 13:15~14:45 OZONE部長 若宮直行氏	26-I「ハイムテキスタイル'95インテリアトレンド」 15:30~17:00 (株)川島織物
	302号室 (100名)	26-B「CG最前線」 11:00~12:30 (株)ジョン 安藤俊之氏	26-F「暮らしを豊かにする色彩心理」 13:15~14:45 (株)ハート＆カラー 末永富生氏	26-J「ハウジングにおける窓の形状の変遷」 15:30~17:00 (株)リクルート 月刊ハウジング 加藤恒久氏
	303号室 (100名)	26-C「窓の形とウィンドトリートメントの組合せ方」 11:15~12:45 トーンズ (株)	26-G「塩ビ床タイルの目地工、ササリ巾木の施工」 13:30~15:00 東リ (株)	26-K「塩ビ床タイルの溶接工法、階段施工上り上げ工法」 15:45~17:15 東リ (株)
	304号室 (70名)	26-D「ジェットプリントカーペットの技術」 11:15~12:45 住江織物 (株)	26-H「ブラインド・ロールスクリーンによるウィンドトリートメント」 13:30~15:00 (株)ニチペイ	26-L「カーペット販売におけるダニ対応」 15:45~17:15 愛床コンサルティング 吉野孝氏
1月27日(金)	201号室 (300名)	27-A「ハイムテキスタイルの傾向」 11:00~12:30 (株)エスパス 魚谷誠一郎氏	27-E「インテリアデザインの今日的課題」特別講演 13:15~14:45 (株)スタジオ80 内田賢氏	27-I「関西国際空港の空間設計」特別講演 15:30~17:00 レンパリアビルディングアクションアソシエーション 岡部肇明氏
	302号室 (100名)	27-B「環境対応・抗菌加工商品の現状と将来」 11:00~12:30 松下電器産業 (株) / ダイニックス (株)	27-F「こだわりのインテリア」 13:15~14:45 講談社 ソフィア編集長 大平弘氏	27-J「色彩心理とヘルスケア・インテリア」 15:30~17:00 アスワン (株)
	303号室 (100名)	27-C「インテリアの配色と照明効果」 11:15~12:45 東北芸術工科大学教授 日原もと子氏	27-G「こだわりのカーテン番店」 13:30~15:00 カーテン館「窓」 後藤 賢氏	27-K「正しいカーペットのクリーニング法」 「アートカーペット」 15:45~17:15 (社)全国インテリアクリーニング協会 柳澤道子氏
	304号室 (70名)	27-D「内装制限と防火壁装」 11:15~12:45 壁紙材料協会 戸田嘉徳雄氏	27-H「これからの壁紙の新素材」 13:30~15:00 (株)サンゲツ	27-L「PL法について」 15:45~17:15 東京海上火災保険 (株) 亀井哲也氏
1月28日(土)	201号室 (140名)	28-A「人生80年/本当の住まいとは」 11:00~12:30 東京都老人総合研究所 林玉子氏	28-E「住宅産業とインテリアビジネスの展望」 13:15~14:45 (社)インテリア産業協会名誉会長 岡田徳太郎氏	-----
	302号室 (100名)	28-B「織物壁紙の施工について」 11:00~12:30 (株)川島織物	28-F「100万円で作れるお部屋の模様替え」 13:15~14:45 主婦の友社 プラス1編集長 門谷樹美子氏	-----
	303号室 (100名)	28-C「テーブルコーディネートの実演」 11:15~12:45 (株)セルコン	28-G「地球環境とカーペット」 13:30~15:00 住江織物 (株)	-----
	304号室 (70名)	28-D「和のウィンドトリートメントの生かし方」 11:15~12:45 トーンズ (株)	28-H「畳文化とインテリア」 13:30~15:00 東京都畳材商協同組合理事長 荒井将佳氏	-----

■セミナーお問い合わせ・申込先

JAPANTEX'95 インテリアビジネスセミナー事務局

〒104 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル6F (株)信和クリエイティブ内 TEL.03-3563-1933 FAX.03-3563-0874

● JAPANTEX '95には、JID も展示に参画しています。(ブース No.508)

1994/12~1995/1

1995年1月18日発行

(社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報1995年通巻185号)

編集/発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会事務局 印刷所・有限会社 コーエイ企画

〒160 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559